



アクションネットワーク桜台校区特集 つながりがカタチに

市域全域に支援を広げる

認定NPO法人全国子ども食堂支援センター・むすびえによる休眠預金事業「居場所の包括連携によるモデル地域づくり(全国)」。この事業により発足した「地域から広がる第三の居場所アクションネットワーク」は2か年目を迎え、おかげさまでますますの広がりを見せています。

さらに、ネットワークを通してできたつながりから各地域の関係者同士で活動のアクションが起こっています。特に桜台校区では「桜台校区ネットワーク」を発足し、子どもの居場所や食支援の場が新たに開設されるなど、勢いのある連携が実現し、カタチになりました。

新型コロナ禍で緊急性の高い地域からはじめた食の支援は、今、市域全域に広がろうとしています。

みなさまの引き続きのご支援どうぞよろしくお願いいたします。

子ども・障がい・高齢者・外国ルーツ……誰も取りこぼさない地域づくり

アクションネットワークこの間の動き

議員さんとの連携に向けて

この間、地域から広がる第三の居場所アクションネットワークの構築及び食支援等の実践を広げつつ、同時並行で政策提言のため党派を超えた高槻市議会議員のみなさまのもとへご挨拶にうかがい、ネットワークの趣旨説明と協力依頼をさせていただきました。

活動についてみなさまから前向きなご意見、ご感想をいただきました。

高槻市議会の山口重雄議長、真鍋宗一郎副議長にお会いした際には、山口議長からは教育委員会にいらっしゃった頃のお話にはじまり、こうしたネットワークにおいて人と人のつながりができることの大切さをお話いただきました。

また、真鍋副議長からは市内の企業さんとの連携によるスキーム作りの大切さについて助言をいただきました。

吉田ただのり前議長からは、「市議会全体としても地域の中で第三の居場所を広げようとするこのような動きに反対される人はおられないでしょう、ぜひ協力していきたい」と心強いお言葉をいただきました。



吉田あきひろ議員には、子育て、子ども施策について党としても中心に据えられ力を入れられてきたことから子どもたちを中心に超党派で取り組んでいくことの大切さをお話いただきました。

さらに、平田裕也議員からは、自身の経験から子どもたちがさまざまな社会体験をする場の必要性をお話いただきました。



また、遠矢家永子高槻市議会議員後援会「市民力と政治をつなぐかえ子ネット」が主催されている「子どもの権利」ワーキングチーム研修会にお招きいただき、当法人の取り組みをお話させていただきました。

みなさまご多忙中の中、貴重なお時間をいただきありがとうございました。

ネットワークの構築にあたっては党派にかかわらず様々な議員さんからご支援を頂ければと思っております。ご興味頂いた方はぜひよろしく願いいたします。



「子ども食堂交流会・ 開設や制度利用のポイント講座」開催



6月16日(木)午後3時より「地域から広がる第三の居場所アクションネットワーク」主催による「子ども食堂運営のポイント講座&交流会」を開催。交流会はコミュニティスペース NikoNiko と ZOOM オンライン併用で行われ 21 団体 31 名の方にご参加いただきました。

「子ども食堂をはじめたいんだけど何からすればいいの？(人は？食材は？お金は?)」「ほかの子ども食堂さんはどんな形式でしてるの？」など、当法人に寄せられる相談も多く、お互いの交流と高槻市の行政職員さんをお招きしての企画。

三木正博座長挨拶を受けて子ども食堂運営者相互の交流と開設に当たっての衛生管理、保険加入、アレルギー等の留意点を再確認。その後、高槻市子ども未来部子ども育成課・石本課長ならびに村上副主幹さんより高槻市の「子ども食堂運営支援事業補助金」についての制度のご説明をしていただきました。

子ども食堂運営補助金の制度説明にお越しいただいた高槻市の皆さん、そして参加者のみなさまもありがとうございました！

「地域から広がる第三の居場所アクションネットワーク」(第6回)を開催しました



7月9日(土)午前10時から「地域から広がる第三の居場所アクションネットワーク」の会議を開催しました。

第6回となる今回も「コミュニティスペース NikoNiko」「市民協働プラザ」「地域ひといき」3会場をサテライトに ZOOM をつないでのオンライン会議です。

三木正博座長あいさつの後、関西大学社会学部内田龍史先生ゼミの大学生のみなさんをはじめ新しく参加された方をご紹介します。

ブレイクアートルームに続いて、6月から川西地区で「おかえり広場」をスタートさせた NPO 法人三島子ども文化ステーションさん、桜台エリアで同じく6月からスタートした「マサミ子ども食堂」など新しい事業展開についてそれぞれご報告をいただきました。

その後、(株)ファミリーマート「ファミマフードドライブ事務局」様からファミマ各店舗を起点としたフードドライブ協力パートナーの呼びかけと概要説明。

これを受けて、企業さんとの協働による食支援構築、高槻市「子どもみまもりつながり訪問事業」、厚労省「ひとり親家庭の子どもの食事等支援事業」との連携について事務局からの提案を受け市域全域での食支援構築の仕組み作りについて意見交換しました。

この「アクションネットワーク」も当初の予想を超える70団体127名もの方々に参加登録いただき、次回開催は9月24日の予定です。

桜台校区ネットワークが発足・始動

① 子ども食堂開設に向けたご相談

市域広域事業においてネットワークを構築するようになり、様々な団体さんはもちろん党派を超えた議員さんから子どもの居場所についての相談にのってあげてほしいという依頼をいただくことが増えました。

「高槻みらい訪問看護ステーション(ナーシングホームみらいのいろ)」さまが子ども食堂開設に向けたご相談で来られました。居場所づくりの際のコンセプトや保健所への手続き、保険加入、地域でご理解をいただきながら開設するために相談する必要がある場所等、多岐にわたりお話しさせていただきました。

市内各所でこのような第三の居場所が増えるため党派関わらず様々な議員さんとも連携させていただき、法人として微力ながら取り組みたいと思います。



② 医療関係者との連携



桜台校区での食支援の仕組みづくりについての協議のため「しらかわ・いもとクリニック」の白川先生、小比賀さんのもとへ。今回は「えん食堂つむぎ」さんの保田さんご家族、スタッフの山田さんにも同席していただきました。「えん食堂つむぎ」さんは先日東天川でこども食堂をオープンしたばかりですが、桜台エリアも活動の視野に入れておられます。

その後、小比賀さんと一緒に「うえだ下田部病院」の理事長植田和子先生と船山さんにお会いしました。こちらではふうせん文庫の海老ヶ瀬さんも同席。植田理事長は、海老ヶ瀬さんとのつながりからも文庫活動と子ども食堂の実施を考えておられます。

今回は顔合わせの中で、それぞれの想い、アイデアを共有することができたので、次回、関係者のみなさまが集まってより具体的に話せるような場を持つことになりました。



桜台エリアで団体間のネットワーク構築



桜台エリアでの食支援の構築は、協議を進めると同時に、情報発信やアクションネットワークへの共有を行ってきました。そして、桜台エリアを拠点に子どもとの関わりがある、またはこれから居場所を作りたいと考えておられる方が徐々につながってくるという予想以上のアクションが起こっています。

今回は顔つなぎとゆるやかなネットワーク構築を目指し、総勢11名の皆様にお集まりいただきました。

当法人にご相談に来られた「ナーシングホームみらいのいろ」さんが6月から開催する子ども食堂のチラシを共有すると、広報のお手伝いや子どもたちが安全に通える道の提案など、事務局との協議だけでは生まれない、地域の方々ならではの情報交流が行われました。初回からネットワークの力が発揮されていて、つながりの大切さを実感しました。

「食支援」「子ども食堂」「文庫活動」「子どもが集うイベント」とやりたいことはそれぞれ異なるものの改めて「居場所」をキーワードに想いを分かち合う場になったようです。

まさに市域広域事業が目指す、点が線になり、面が生まれるその瞬間でした。

ナーシングホームの濱田代表、堺さん、池田さん、うえだ下田部病院の植田会長と職員の船山さん、えん食堂つむぎの保田さん、ふうせん文庫の海老ヶ瀬さん、じゃんぷ学童クラブの大浦さん、元桜台認定子ども園園長の甲斐田先生、しらかわ・いもとクリニックの白川先生、小比賀さんお集まりいただきありがとうございました。

③ 市議会に取り上げていただきました。

桜台エリアでの食支援ネットワーク構築を進める中で、高槻市議会において吉田あきひろ議員から「子ども食堂について」居場所の包括支援が生まれていくうえで非常に意義のあるご質問をしていただきました。

全文につきましては当法人HPに2022年6月25日の記事にて掲載させていただいております。(URL:<https://x.gd/TG6FC>)。

また、桜台校区での子ども食堂開設に向けて学校や地域との連携にご尽力いただき、オープン日にも足を運んでいただきました。



桜台校区ネットワークは現在、関係者のみなさまによって会が運営され、居場所の充実に向けて協議が行われています。これからの活動の広がりが楽しみです。

01 高槻市みまもり・つながり 訪問事業今年度も始動

厚労省が新たに事業化した「支援児童等見守り強化事業」。高槻市も昨年度から事業化し今年度で二年目となる事業です。

昨年度に引き続き、今年度も民間団体プロポーサル公募が実施され、タウンスペース WAKWAK も昨年度に引き続き事業者として公募選定されました。昨年度は3～5歳の未就園児家庭が対象でしたが、今年度は2～5歳と対象家庭が拡大され、高槻市域の西半分を担当することとなりました。

メンターさん、訪問員さんとの研修会を重ね、今年度も7月からスタートしています。

※メンターとは：指導者、助言者のこと。

精神面のサポートも担い公私共に相談できる相手のこと。



02 「厚労省ひとり親等の 子ども食堂等支援事業」実施

「夏休みに体重を減る子を出さないために」をコンセプトに実施する当事業。市内公営住宅5エリアおよび「高槻市子どもみまもりつながり訪問事業」にて必要な家庭に配布します。この間は、高槻市さん、各地域のネットワーク団体さんと打ち合わせ。配布する子ども支援パックは「株式会社ミートモリタ屋」さんに提供いただきます。それぞれのエリアにて合計約250セットの支援パックを随時配布しています。



info

会員継続と支援のお願い

賛助会員として広く活動を支援して下さる方を募集しています。なお、正会員は社員として議決権を有します。

○正会員（団体）1口1万円（個人）1口5千円

○賛助会員（団体）1口1万円（個人）1口1千円

当法人 HP の申込みフォーム欄にてご連絡先住所等の必要事項を送信いただいた上、会費を直接ご持参いただくか下記の郵便口座にお振替下さい。（領収書が必要な方は、その旨、お申し出ください）

会費振替口：00990-6-201524 口座名：タウンスペース WAKWAK

また、クレジットカードによるオンライン寄付サービスも導入しています。同封別紙をご参照ください。

（編集後記）

市域広域事業始動後、桜台校区はじめさまざまなエリアで食支援が広がっています。今後、富田地域を基盤により多くの人に支援を届けていくためにも継続したご支援はもとより新たなご支援をぜひともよろしくお願い申し上げます。